

第2回町民検討委員会 ワークショップ 結果報告書



別海町

目的

2009年度（平成21年度）に策定された第6次別海町総合計画が、2018年度（平成30年度）をもって終期を迎えます。総合計画とは、別海町が目指すべき将来像を、10年先を見据えて総合的に策定するものであり、その策定に住民の意見は欠かせません。本ワークショップは、新たな総合計画を策定するにあたり、住民の方々のご意見を広く反映すべく、全5回を開催するものです。

第2回となる今回のワークショップでは、「保健・医療・福祉」、「地域コミュニティ」、「つながり・交流・ネットワーク」、「定住・移住」の4つの分野について、現状の課題とこれからの別海町が目指す姿の意見交換を行い、ワークショップでの住民の方々のご意見の中から、新たに策定する別海町総合計画にふさわしい意見を選考し、反映させていただきます。

また、このような話し合いを通して、まちづくりへの興味・関心の醸成、協働によるまちづくりにつながれば幸いです。

概要

- 日 時：平成30年5月29日（火） 18：30～20：00
- 場 所：別海町役場庁舎1階 101・102号会議室
- 対 象：第7次別海町総合計画町民検討委員
- 主 催：別海町役場 総務部 総合政策課
- グループ：3グループ（A班6名、B班6名、C班5名）
- テーマ：住み続けたい別海町

当日のスケジュール

開会あいさつ（18：30～18：35）

別海町まちづくりアンケート調査【概要版】の説明
（18：35～18：45）

ワークショップ討議
「住み続けたい別海町」
ディスカッション（18：45～19：10）

休憩（19：10～19：20）

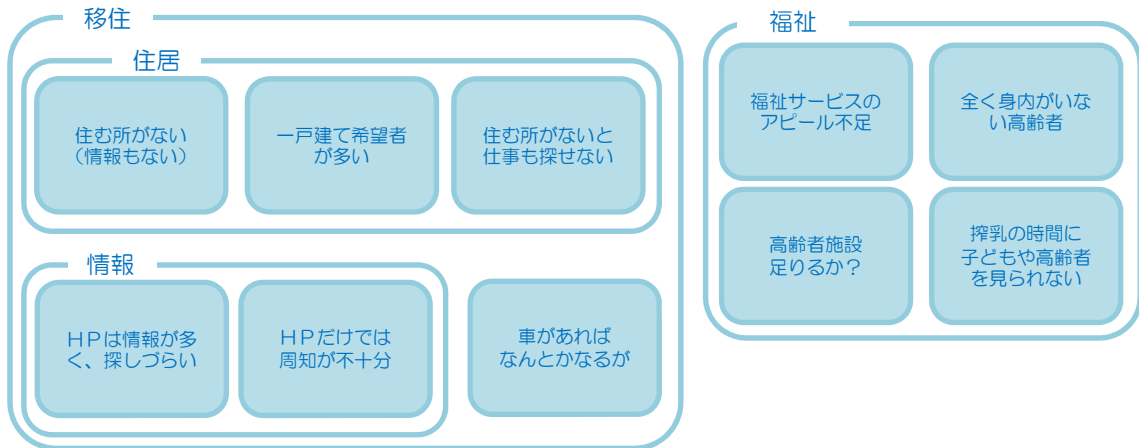
ワークショップ討議
「住み続けたい別海町」
ディスカッション（19：20～19：45）

各グループ発表（19：45～19：55）

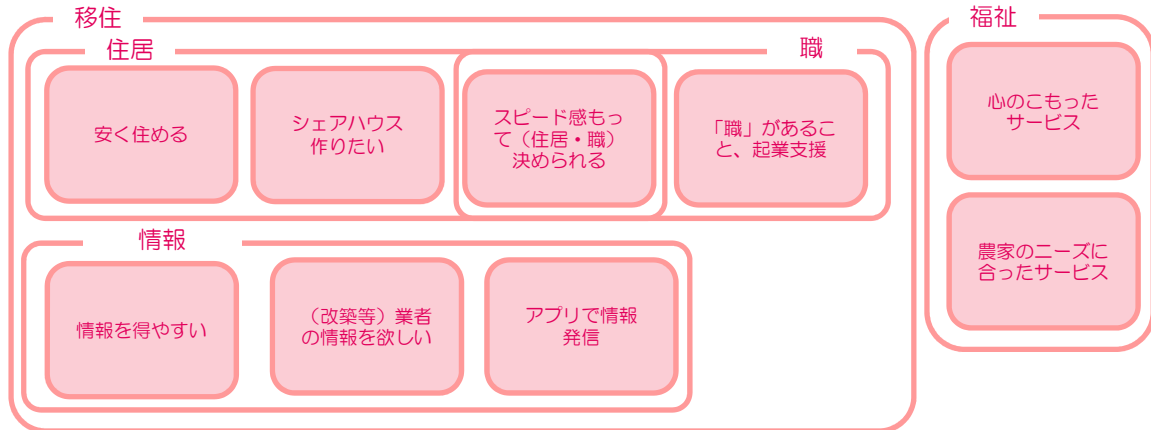
まとめ・閉会（19：55～20：00）

A班

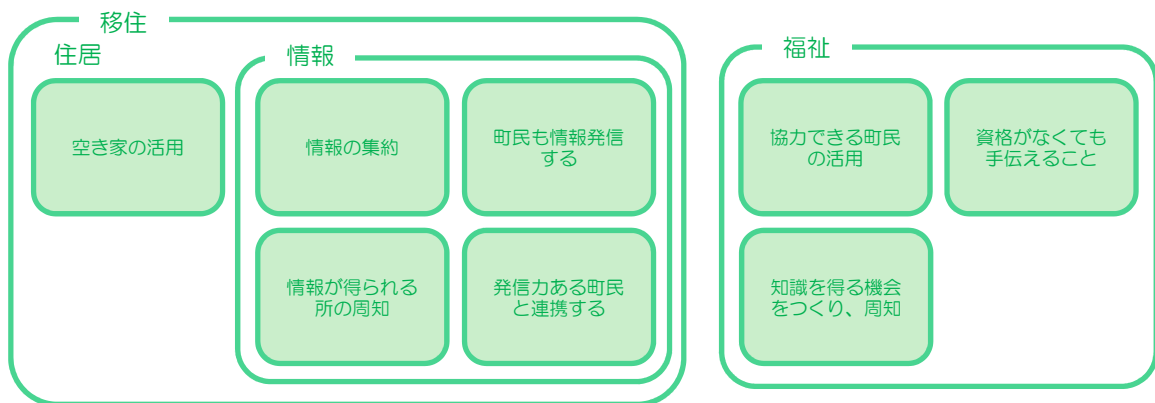
現状や実体験



理想の想像



市民ができること行政がすべきこと

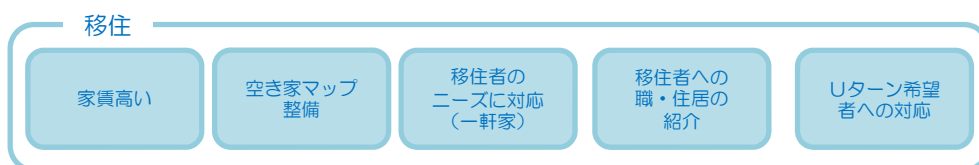
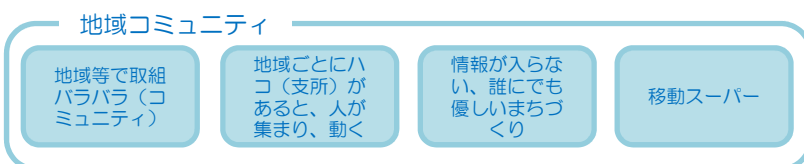
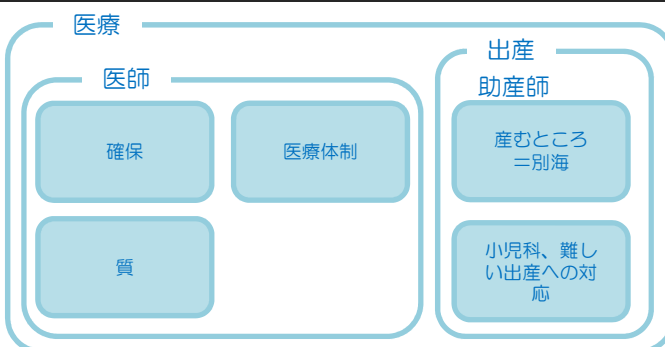
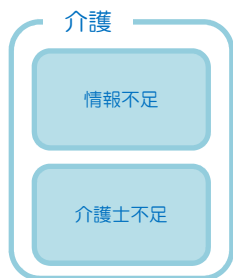


A班のまとめ

移住・定住、地域コミュニティを中心に意見交換を進めた。住む所が少ないという意見が多く、住みたい人に向けた情報発信として、空き家や空室の情報をまとめて町などが発信した方がいい。町では情報発信がうまくできていないところがあるので、もっと分かりやすく、町民にも情報発信する能力が高い人がいるので、そうした人とも連携して、情報を受けるだけでなく、町民からも発信していくとよいのではないかという意見が挙がっていた。

B班

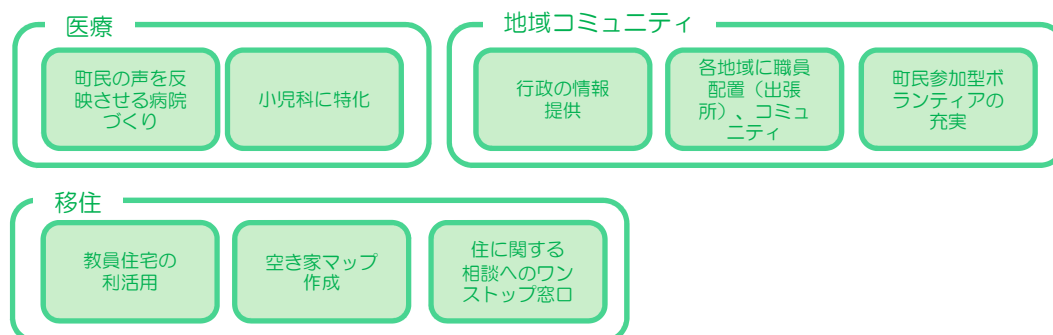
現状や実体験



理想の想像



市民ができること行政がすべきこと



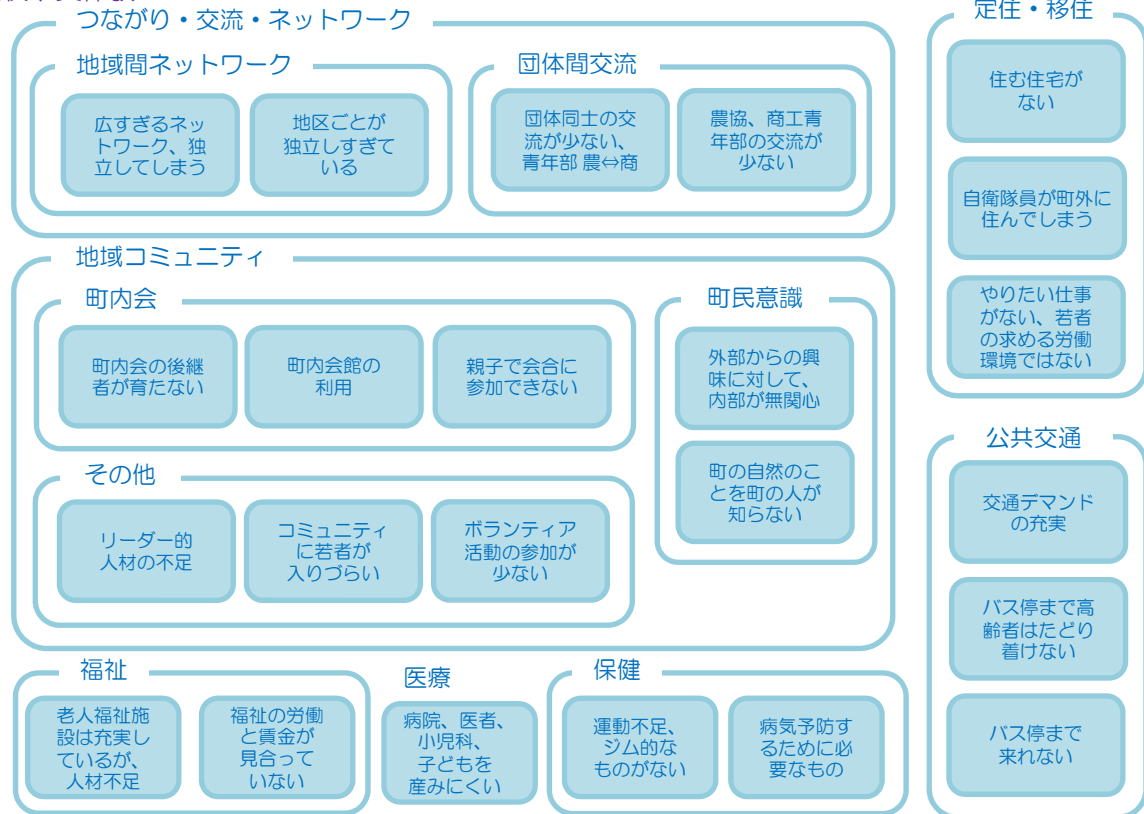
B班のまとめ

移住・定住に関して、職と住居の情報が少ないということがあり、住居に関しては、空き家マップを町内会とも連携しながら、町に作成してほしい。また、現状では難しいかもしれないが、空いている教員住宅が多くあるので、それを利活用できないかという意見が挙がった。

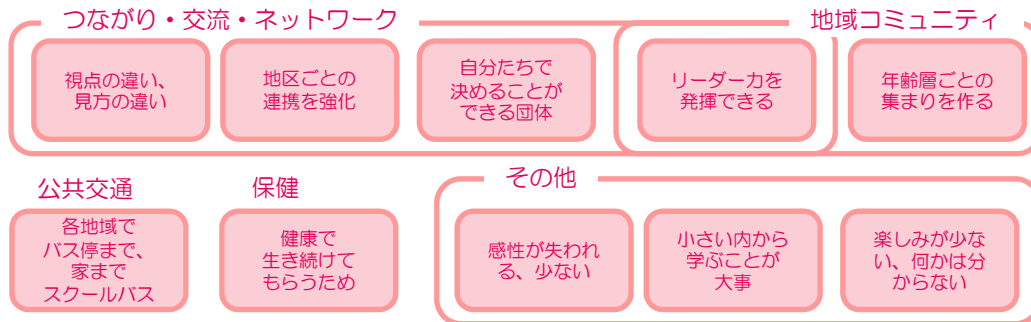
職に関しては、UターンであってもUターンであっても、起業したい人に対して支援を行ってはどうか。例えば、空き店舗の紹介など、できることはいろいろあると思う。

C班

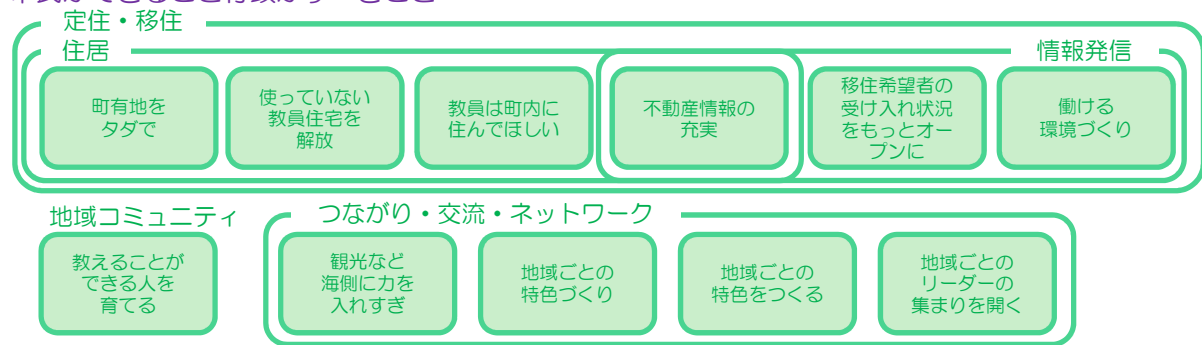
現状や実体験



理想の想像



市民ができること行政がすべきこと



C班のまとめ

移住・定住に関して、住む場所が少ないため、使っていない教員住宅を解放することはできないか。また、どこに空き家があり、誰に聞いたらよいか分からないという意見も多く、行政や地域の商工会などで取りまとめて発信していくとよいのではないかと。

定住に関して、町を出て、中標津地域に家を建てる人が多いため、町有地を無料で提供できないかという案もあった。

地域コミュニティに関して、別海町は広すぎて、各地域で独立している面もあると思われるので、地域ごとの特色をつくった方がよいのではないかと。各地域にリーダーをつくり、首長会議のような形で話し合ったり、連絡を取り合ったりすることができないかという意見が挙がった。そのほか、働ける環境づくりや地域のことを教えられる人を育ててはどうかという意見が出た。